

学力テストの結果から① ～学力と家庭環境～

昨年よりも短くなった夏休みも終わり、2学期が始まりました。いかがお過ごしでしたか。思い切りのんびりする、新しいことにチャレンジする、苦手なことにじっくり取り組む、環境を変えてみる…。それぞれが選んだやり方で過ごした時間が2学期に向けてのエネルギーの蓄えになり、新学期に再び集まった子ども達が、互いにいい刺激を与え合いながら、充実した2学期の学習につながることを願っています。

さて先日、4月に実施された全国学力テストの結果が発表されました。この全国学力テストの結果の分析から、学力と家庭環境について考えてみたいと思います。

国語編 今回のテストの正答率が高く、「できている」と考えられたのは次の2つでした。

- ①相手や目的に応じ、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。
- ②慣用句の意味を理解し使うこと。

①は、**コミュニケーション**の基礎が身に付いてきたと考え



られます。本校の教育でも、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を大切にしています。そういった活動を「よく行っている」と答えた児童ほど、正答率が上がるというデータも出ています。社会で生きていく上で欠かせないコミュニケーション力は、他の人と触れ合いながら磨かれていくもの。友達との学び合いを進んで行い、楽しめる姿勢が学力につながるのかもしれませんが、また、家庭でも学校のこと、友達のこと、将来や進路のこと、地域や社会の出来事やルールなど、子どもの身近な話題に関して話し合う機会を持つこともコミュニケーション力の基礎をつくっていると言えるでしょう。

②は、**語彙力**と考えてもよいのではないのでしょうか。語彙力、単語力を高めるには読書が有効であることは以前から言われています。たくさん外遊びをする子、体を動かすことが習慣化しそれを楽しめる子は、体育が好きであったり、運動能力を伸ばす機会を得られやすかったりします。同様に、普段から本や新聞等の活字に触れ、文字を通して社会や自然のしくみに興味を持ったり、様々な考え方に触れる面白さを知る習慣がある子は、新しいことを知ったり学んだりするために語彙をどんどん増やしていけます。家庭で活字に触れる機会を増やすためには以下のような方法があります。★読み聞かせをする。★親子でいっしょに本を読んで感想を話し合う。★情報の入手先を、テレビやインターネットばかりにせず新聞や本などからも得られるようにする。★図書館などを積極的に利用する。



上の2つの項目は正答率が高かったことから、家庭での取り組みも、もう実践済み！という方も多いかもかもしれませんね。まだの所があれば少しずつ取り組まれてはいかがでしょうか。次回は正答率の低かった問題を通して今後求められる学力について考えます。